2018年～2022年家計調査「すし」消費支出金額の推移

立　山　千　草[1]

1．はじめに

和食文化は日本の気候風土に根ざした伝統を土台として人々の嗜好や調理加工技術および社会環境の影響を受けて時には変容しながら受け継がれてきたものであり、代表的な日本料理の「すし」も同様といえよう。最近、和食文化はその存在がやや薄れつつあり、次世代につなげる努力をすることが重要である[1)]と指摘されている。家計調査は消費生活に与える影響を知る上で欠かせない情報源のひとつである。昨今、新型コロナ感染症の流行は、私たちの家計消費におおきな影響をもたらした[2)]といわれている。

そこで、本報では、2018年～2022年総務省統計局家計調査結果[3)]、「すし（外食）」「すし（弁当）」の家計消費支出金額の推移を１世帯当たり年間の都道府県所在市別・月別・世帯属年齢階級別から概観し、考察を試みる。

2．「すし」の都道府県所在市別消費支出金額の推移

新型コロナウイルス感染症の流行を受け、政府は2020年４月から2021年９月まで、多い地域では計４回にわたって緊急事態宣言をした。それを受けて、飲食店などで食事の場を提供している「外食」が時短営業や休業を余儀なくされ、自炊やお弁当の需要量が増加した。家計調査における「すし」は、「すし（外食）」と「すし（弁当）」２項目の値が収載されている。なお「すし（弁当）」は巻き寿司のほか、にぎり寿司、いなり寿司なども含まれる。2019年～2021年総務省家計調査「すし（外食）」「すし（弁当）」都道府県庁所在都市別支出金額（二人以上の世帯）（図１図２参照」）によると、「すし（外食）」は、2020年に支出激減が認められる。これは新型コロナウイルス感染症の影響が大きいと思われる。2021年には上昇がみられるが2019年の値より低い。

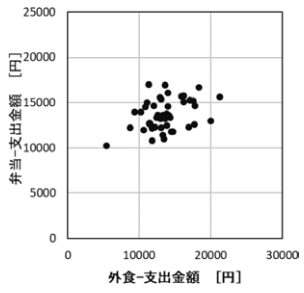

図３　「すし」外食と「すし」弁当の支出金額の散布図
＊総務省家計調査結果を加工して作成（2019年～2021年平均）

一方、「すし（弁当）」は、年が進むにつれて支出の上昇が認められる。2020年に急激な上昇は認められない。この３年間における「すし」の外食と弁当との支出金額は非常に弱い相関（相関係数0.370）を有する（図３参照）。地域における消費行動の異なりが窺える。

図１　「すし（外食）」都道府県庁所在市別支出金額の推移
＊総務省家計調査結果を加工して作成
左から2019年2020年2021年

図２　「すし（弁当）」都道府県庁所在市別支出金額の推移
＊総務省家計調査結果を加工して作成
左から2019年2020年2021年

3．「すし」月別消費支出金額の推移

すしは、季節の行事など特別な日に関連した食べ物として食する頻度が高い[4)]。すしの月別消費支出金額の状況について、「すし（外食）」「すし（弁当）」の１世帯当たり年間の月別支出金額割合（％）の推移を記す。（図４図５参照）2018年～2022年各平均値を100として比べると、2020年の外食を除く月別支出金額割合の傾向は似ている。消費が比較的多い月は、外食は、８月10.2％、１月10.1％、12月9.8％、弁当は12月11.0％、２月10.3％、８月9.6％である。一概に決められないが、１月は正月、２月は節分の巻き寿司（恵方巻き）、８月はお盆、12月はクリスマスや大みそかなど、季節の行事や特別な日といったハレの日としての利用が連想できる。その他の月の支出金額の割合は2020年外食の４月4.2％を除くと、外食は

1　たてやま　ちぐさ　〒950-8680　新潟市東区海老ケ瀬471　新潟県立大学

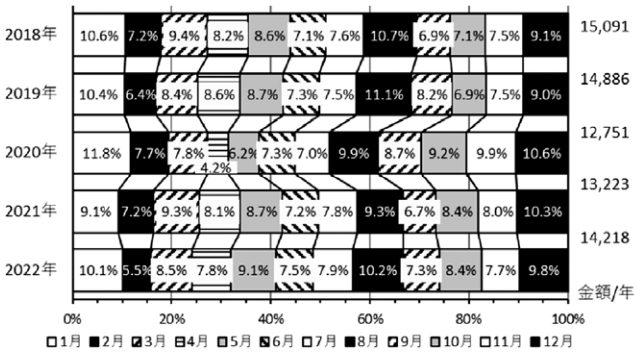

図４　「すし(外食)」の月別消費支出金額割合(%)の推移
＊総務省家計調査結果を加工して作成　2018～2022年

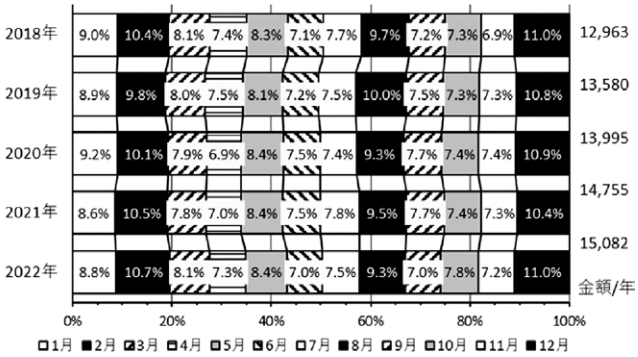

図５　「すし(弁当)」の月別消費支出金額割合(%)の推移
＊総務省家計調査結果を加工して作成　2018～2022年

6.2～9.9%、弁当は6.9～9.2%で一年を通じて消費している。すしの種類は、握り、巻き、押し、ちらし、手巻きなど数多い。また現在、最もポピュラーな握り寿司においては、回転寿司、デパ地下、スーパーやコンビニなど多様な販売形態で一般的に気軽に食される傾向にある[4)5)]といわれている。これらの要因が大きく反映された結果と考えられる。

なお､2018年～2022年の「すし（外食)」１世帯当たり年間支出金額は12,751円～15,091円（140,338円／年)､「すし（弁当)」は12,963円～15,082円（140,075円／年）である。(図４図５参照)

４．世帯属年齢階級別１世帯当たり「すし」の消費支出金額の割合（%）の推移（二人以上の世帯、単身世帯）

次に2018年～2022年、各年における世帯属年齢階級別消費状況について概観する。世帯属年齢階級別「すし(外食)」「すし（弁当）支出金額の割合（%）(二人以上の世帯、単身世帯）について表に記す。(表１参照）まず、世帯属別に比較すると二人以上の世帯（77.8～81.4%）で支出金額の割合は多い。すしは人が繋がる場で選ばれる傾向があるように思われる。二人以上の世帯の「すし（外食)」は、30～39歳、40～49歳、50～59歳で支出割合が多く、70歳以上は少なく外食控えが示唆される。二人以上の世帯の「すし（弁当)」は､年齢階級が高くなるにつれてコロナ禍で外食が控えられたのか､手軽さ志向なのか、支出割合が多い。年を追っての急激な増加は認められない。

一方､単身世帯の「すし（外食)」は､2019年2020年は35～59歳、60歳以上の支出金額の割合は多いが2021年2022年では34歳以下で多い傾向にある。60歳以上の支出が減ったのは外食離れの行動とも推察できる。単身世帯の「すし（弁当)」は､年齢階級が高くなるにつれて支出割合が多い。二人以上の世帯と同様の傾向であり、中食利用促進への現れと思われる。

以上の結果､「すし」（外食）と「すし」（弁当）の消費には、相互補完的な行動の傾向は少ないと考える。

表１　世帯属年齢階級別１世帯あたり「すし（外食)」「すし（弁当)」支出金額の割合（%）の推移（二人以上の世帯、単身世帯）

年	品目分類		二人以上の世帯							単身世帯				二人以上の世帯、単身世帯の合計
			29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	小計	34歳以下	35～59歳	60歳以上	小計	
2019	世帯数(%)		1.3	9.5	16.9	15.6	19.7	28.9	91.9	0.8	1.4	5.9	8.1	100.0
2019	支出金額(%)	すし(外食)	10.9	14.7	14.7	13.9	14.2	11.9	80.3	6.8	5.1	7.7	19.7	100.0
2019	支出金額(%)	すし(弁当)	7.0	8.1	10.7	14.9	18.7	19.0	78.4	4.7	7.5	9.5	21.6	100.0
2020	世帯数(%)		1.5	9.3	17.1	14.8	19.0	30.1	91.9	0.8	1.4	5.9	8.1	100.0
2020	支出金額(%)	すし(外食)	12.9	16.2	14.8	13.8	12.6	9.3	79.6	6.1	6.6	7.7	20.4	100.0
2020	支出金額(%)	すし(弁当)	8.2	9.3	11.8	14.5	16.7	18.4	79.0	4.2	7.0	9.9	21.0	100.0
2021	世帯数(%)		1.4	8.9	17.0	15.9	18.2	30.5	91.8	0.9	1.5	5.8	8.2	100.0
2021	支出金額(%)	すし(外食)	12.9	14.6	14.6	14.8	12.0	9.0	77.9	9.7	7.0	5.3	22.1	100.0
2021	支出金額(%)	すし(弁当)	6.3	9.2	12.1	14.2	17.3	18.7	77.8	5.5	7.2	9.5	22.2	100.0
2022	世帯数(%)		1.2	9.0	16.4	16.7	17.9	30.8	91.8	0.9	1.5	5.9	8.2	100.0
2022	支出金額(%)	すし(外食)	14.3	15.1	14.8	14.1	13.1	10.1	81.4	7.1	5.6	5.9	18.6	100.0
2022	支出金額(%)	すし(弁当)	5.6	9.0	11.8	14.7	18.0	18.7	77.8	5.5	6.6	10.1	22.2	100.0

＊総務省家計調査結果を加工して作成　(2019～2022年)

5．「すし（外食）」「すし（弁当）」月別消費支出金額の変化

食の志向は地域との関連性が高い。家計調査（二人以上の世帯）品目別都道府県所在市及び政令指定都市ランキング（2020～2022年平均）[6]によると、「すし（外食）」は、全国平均13,397円、1位金沢市であり、「すし（弁当）」は、全国平均14,611円、1位奈良市18,519円である。試みに、金沢市および奈良市の「すし（外食）」「すし（弁当）」月別の消費支出金額の変化について検討する。2018～2022年平均、2018～2022年平均（2020年除く）、2020年平均の消費支出金額の様子を以下に記した。（図6参照）

金沢市「すし（外食）」月別の消費支出金額の変化は5年間（2018年～2022年）、4年間（2018年～2022年、2020年除く）で類似しており、年間通して全国平均値を越えて極めて多い。金沢市「すし（弁当）」（9位16,355円）も「すし（外食）」ほどではないが平均値は超えている。なお、都道府県所在市及び政令指定都市ランキング（2020～2022年平均）[6]の「すし（外食）」「すし（弁当）」の支出金額を加算すると金沢市が最も多い。外食・中食の利用度が高い都市といえる。

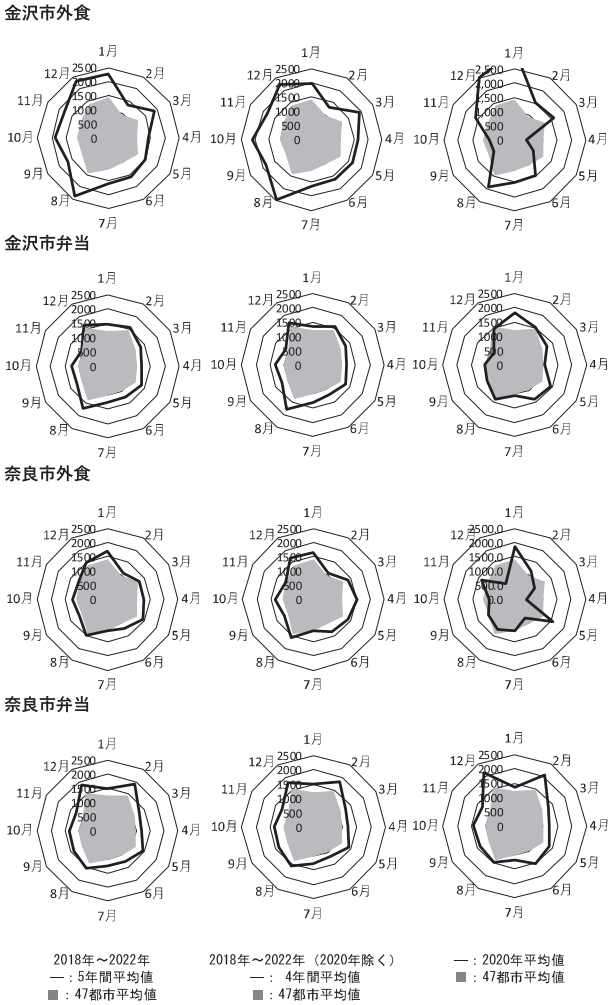

図6　家計調査金沢市「すし（外食）」・奈良市「すし（弁当）」の月別の消費支出金額の変化
＊総務省家計調査結果を加工して作成

奈良市「すし（外食）」（19位14,054円）月別の消費支出金額の変化は、5年間（2018年～2022年）、4年間（2018年～2022年、2020年除く）類似しており、年間通して全国平均値を越えている。奈良市「すし（弁当）」も同様に平均値を超えている。

金沢市と奈良市の「すし（外食）」月別支出金額の動きは、類似している。食の志向が類似しているのかもしれない。金沢市と奈良市の「すし（弁当）」月別の消費支出金額の動きは全国平均に比べて、金沢市が8月、奈良市は2月に消費金額が多い。節分の巻き寿司（恵方巻き）の購入と地域性との異なりを示唆しているように思われる。

6．おわりに

新型コロナウイルス感染症流行及び前後の期間である2018年～2022年「すし（外食）」「すし（弁当）」家計消費支出金額の推移について、1世帯当たり年間の都道府県所在市別・月別・世帯属年齢階級別から考察した。都道府県所在市別からみると、2020年に「すし（外食）」消費支出に影響が認められるが、「すし（外食）」「すし（弁当）」の消費行動にほとんど変化は認められなかった。月別、世帯属年齢階級別の異なりから、季節の行事や特別な日といったハレの日における食の志向が消えていないと推測できる一方で、すしの一般化、手軽さが支持されている状況が明らかとなった。

参考引用文献

1）農林水産省：「「和食」を未来へ。」https://www.maff.go.jp/j/keikaku/syokubunka/culture/pdf/houkoku_2.pdf（2024年1月27日アクセス）
2）総務省統計局：「家計における新型コロナウイルス感染症の影響」家計調査通信第559号（2020年9月15日）
3）総務省統計局：家計調査年報（家計収支編）（総世帯・二人以上の世帯・単身世帯）調査結果2018年～2022年 https://www.stat.go.jp/data/kakei/npsf.html（2024年1月27日アクセス）
4）農林水産省：「食生活実態及び和食文化に関するアンケート調査（調査報告書）」2023年3月 https://www.maff.go.jp/j/keikaku/syokubunka/culture/attach/pdf/chousa-1.pdf（アクセス2024年1月27日）
5）マルハニチロ株式会社：「回転寿司に関する消費者実態調査　2023」（NEWS　RELEASE）2023年3月 https://www.maruha-nichiro.co.jp/corporate/news_center/research/pdf/20230316_research_sushi2023.pdf （アクセス2024年1月27日）
6）総務省統計局：家計調査（二人以上の世帯）品目別都道府県庁所在市及び政令指定都市ランキング（2020年～2022年平均）https://www.stat.go.jp/data/kakei/5.html（アクセス2024年1月27日）